



## 「SB Student Ambassador」を きっかけにプロジェクトを立ち上げた 三田国際学園高等学校に インタビュー

### — どうして「月経と環境問題の関係性について」のテーマに 取り組もうと思ったんですか？

「元々2人ずつ別のチームで環境問題について取り組んでいて、廃油から洗剤を作ったり、使用済みのジップロックから傘を作る活動をしていました。4人になって新しいプロジェクトを始めようと思ったときに、共通の話題で盛り上がった“生理”をテーマにしようと考えました。私たちの学校では性教育を生徒主催で進める取り組みを行っていたり、まだまだオープンな訳ではないですが、隠すことではないという認識は特にあると思います」(葛山はるか)



日本旅行では、今年の2月に開催された「サステナブル・ブランド国際会議 2022 横浜」において、次世代を担う高校生と共にサステナブルな社会の実現に向けて「SB Student Ambassador」を開催しました。三田国際学園の4名は、「月経と環境問題の関係性について」をテーマに、女性の生理用品と環境問題の関係性について高校生の視点で意見を述べました。また、今回の論文の内容が企業の目に止まり、彼女たちの意見を取り入れた商品企画のプロジェクトが進んでいます！



左から野口璃羅さん、葛山はるかさん、根津はる香さん、伊東沙彩さん

### — 「SB Student Ambassador」に参加してみた感想は？

「サステナブルな商品が今後広がるにはどうすればいいの、という視点から物事を考えることができました。始めた時は環境と月経は別々の関係のないことだと思ってたのですが、実は繋がっているんだと気付くことができました」(根津はる香)

「1年前まで留学していたのですが、カナダでは生理用品はトイレに置いてあり、トイレットペーパーと同じ感覚で誰でも学校でもらえるものでした。「生理貧困」という言葉もあるように、このプロジェクトがきっかけで今後自分が大学で学びたいことが見つかり、リベラルアーツ的な視点で考えられるようになりました」(伊東沙彩)

「環境問題というと、ゴミ問題だったり、エネルギー問題に着目しがちなのですが、自分の身近なところにもあると気付きました。私は環境問題に取り組むにあたって「『捨てる』という概念を捨てる」というモットーを持っていて、繰り返し使うことができるこのサニタリーショーツはその理念にも結びついているのかなと思いました」(野口璃羅)

### — 商品企画に込めた想いを教えてください。

「製品名である『Sprinkle』<sup>スプリングル</sup>とは、カップケーキのデコレーションの意味です。トッピングされることで可愛く、生理期間が少しでもキラキラして前向きに過ごしてほしい気持ちが込められています。いろいろな種類のを試してほしい気持ちから、ナプキン、月経カップなど詰め合わせにしています。ナプキンはオーガニックコットンなので、使いやすくて、なおかつ環境にも配慮されたWin-Winの商品です。女性でも紙ナプキンだけが当たり前だと思っていて、吸水ショーツを試したことがない人も多いと思います。そんな方にも手に取ってもらえるような可愛いパッケージにしたので、挑戦するきっかけになればと思います」(葛山はるか)

#### SB Student Ambassador事務局より

今回発表して頂いたテーマ「生理用品に新しい選択肢を」というニッチな分野に注目していました。一人の女性が一生の間に使う生理用ナプキンの枚数と、今社会的に課題となっているプラスチック問題が繋がっていることに着目し同世代への意識調査を基に、環境に配慮した生理用品があるにも関わらず普及していない現実と、自分たちが取り組むべき解決策を提案いただきました。フェムテック(女性が抱える健康課題をテクノロジーで解決できる)商品を展開する豊島株式会社様に相談し、生徒さんとプロジェクトを組む初めての試みに挑戦しています。

